

会長就任のご挨拶

日本微生物資源学会会長 中桐 昭

2017年3月の理事会において、本学会の会長を拝命いたしました。たいへん微力ではございますが、本学会の発展のために力を尽くしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本学会が主題とする微生物を中心とする培養生物株の保存と分類研究の成果は、様々な分野に広がる微生物学のまさに基盤となるものです。本学会は、下に示しましたように、1951年の日本微生物株保存機関連盟の発足以来何回かの組織変更を経て66年、一貫してこの保存と分類を両輪として発展してきました。

1951年 日本微生物株保存機関連盟 Japanese Federation of Culture Collections (JFCC)

1974年 日本微生物株保存連盟 Japan Federation for Culture Collections (JFCC)

1993年 日本微生物資源学会 Japan Society for Culture Collections (JSCC)

2015年 日本微生物資源学会 Japan Society for Microbial Resources and Systematics (JSMRS) (日本微生物系統分類研究会と合流)

次代に引き継ぐ我々は、本学会が微生物の保存・提供および分類学のエキスパートとして常に新しい有用な情報を発信し、様々な微生物を研究対象とする人々、利用する人々にとって必要不可欠な学会となるよう活動していくべきと考えます。皆様のご理解とご支援、そして、ご鞭撻をお願い申し上げます。

会長退任のご挨拶

日本微生物資源学会前会長 江崎孝行

2017年3月で日本微生物資源学会の会長を退任し、次期は中桐会長が後任として任務に当たられます。わたくしは昨年、大学を退官しました。1981年から、多くのことを系統分類研究会から教えていただきました。任期中に、日本微生物資源学会と統合するという重要な仕事がありましたが、鈴木健一郎監査役と系統分類研究会の杉山純多先生をはじめ、多くの方のご協力をえて統合がかない、系統分類研究会の志は本学会に引き継がれました。今後は日本微生物資源学会の中で、先端研究を会員の皆様に紹介する特別講演やワークショップを開催することになりました。

私の所属している岐阜大学では、病原細菌の系統保存が、医学部の仕事から大学の研究推進・社会連携機構の仕事として継承され、今後は文科省の支援組織である日本生物基盤整備事業の下で推進されることになりました。病原細菌の資産を、社会で有効に活用していただく体制を構築し、実績を上げることが今後の大きな課題になります。これまでGTC (Gifu Type Culture) Collectionとして保存していた菌株やRIMDなど国内の病原細菌の保存機関の保有株をJNBP (Japanese Collection of Bacterial Pathogens)として統合し、文科省のNBRP (National Bio-resource Project)から公開しています。NBRPからの情報が人や動物の病原細菌にかかわる最新情報の発信元になるように、今後は支援をしたいと思っています。